

2021年5月17日

報道関係者各位

東急不動産株式会社

「(仮称) 代官山町プロジェクト」新築工事着工 建築家・隈研吾氏によるデザイン設計 ～緑でつながる新しい『住・働・遊』の拠点～

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：岡田 正志）は、渋谷区代官山町にて推進している新たな複合施設「(仮称) 代官山町プロジェクト」の新築工事に着工したことを、お知らせいたします。

計画地は、代官山駅至近であり八幡通り・代官山通りに面すフラッグシップ性のある立地に位置しています。代官山は、発展を続ける渋谷をはじめ恵比寿・中目黒へも徒歩圏内でありながら、賑わいと落ち着きがバランスよく共存する街です。また、当社が開発の重点拠点とする広域渋谷圏内の魅力ある街の中でも、時代に合わせた変化も柔軟に受け入れてきた、独特の存在感と個性を放つ街です。

当社はこの場所に、賃貸住宅、オフィス、商業施設で構成する複合施設を建築し、「暮らす」「働く」「遊ぶ」の異なるシーンがシームレスに融合する『新しいライフスタイル』をご提案します。

本計画は、世界的に有名な建築家・隈研吾氏がデザイン設計を手掛け、緑あふれる様々な形状の小さな木箱を積み上げたデザインにより、「街の緑につながり、木々が織りなす木漏れ日からひとりひとりの暮らしが垣間見える、木々の成長と共に変わりゆく時代に寄り添う新しい拠点の姿」を描きます。



外観ボリュームイメージ



■ デザイン設計者・隈研吾氏の想い

コロナは建築と都市の歴史にとって大きな転換、折り返しポイントになるであろう。

コロナ以前の建築のテーマは「集中」であった。都心部に集中させることが効率的であり、幸福であると考えられていた。コロナのあと、われわれは都市の様々な活動を分散、多様な存在へと作り変えていかなければならない。『代官山町プロジェクト』はそのような新しい試みの一つのモデルとなるであろう。そこで、われわれは集中の時代の単調な箱にかわる、新しい自由でやわらかな建築を提案しようと考えた。

代官山は様々な意味でそのような自由な建築をつくるために最適な場所である。

まず、多様な地形を持ち、丘があり、川があり、それによって風の流れ、光の射し方も複雑で豊かである。この地は利便でありながら「集中の時代」の退屈な都市とは異なる豊かな自然がそこかしこに生きているのである。そのうえ、新しい自由な街を追求する、様々な試みがつくられてきた「街の実験場」であり「集合住宅の聖地」でもある。

戦前の実験的集合住宅の傑作、同潤会代官山のヒューマンなコミュニティに魅せられて僕は学生時代からその食堂や共同浴場を愛用していた。ストリート型集合住宅の原型を作ったといわれる榎文彦先生のヒルサイドテラスも僕の大事なデートコースであった。

そんな代官山の自然と伝統に助けられ、教えられてわれわれは新しいチャレンジをこの地に刻みたいと考えている。

『代官山町プロジェクト』は「集中の時代」の大きくて閉じた箱に換わり、様々なプロポーションの小さな木箱を積み上げようと考えた。木箱の多様性は街の自由とサステナビリティを象徴する。木箱と木箱の間には緑が植えられ、木箱のやさしいテクスチャーと緑が響きあって、街の緑につながっていく。その真ん中に空とつながるアトリウムを設けた。そのアトリウムから駅へとつながる路地がのび、木箱は空とつながるだけではなく、街とも結ばれ、木箱の生活は代官山の街の活動の一部となるであろう。われわれのデザインと街のシンボルが響きあって新しい時代の新しい生活が始まるだろう。

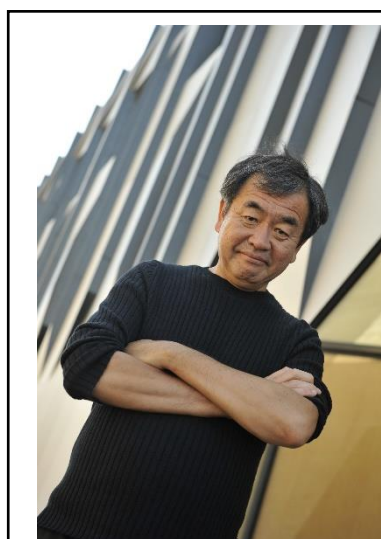


Photo (c) J.C. Carbonne

<建築家・隈研吾氏プロフィール>

1954年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年限研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。

1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、(日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他)、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。



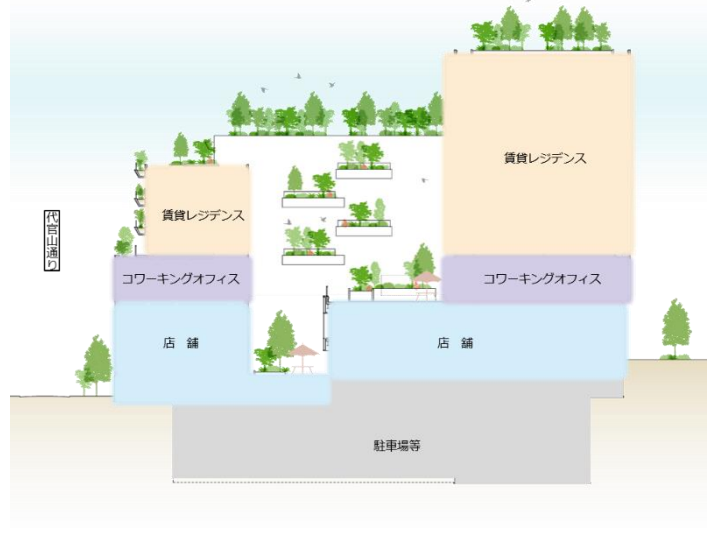
■ 「暮らす」「働く」「遊ぶ」が融合した複合施設

コロナ禍を受けて、新しい生活様式が広がり、人々の価値観やライフスタイルも変容しつつあります。また、以前に増して暮らしがシームレスになり、働き方・働く場所の多様化に加え、消費活動にも変化がみられています。こうした背景から、これからの時代に求められる複合施設は「異なる用途が存在する」ことだけでなく、「各用途が融合し、施設全体で拡張した暮らしの選択肢を提供する」ことが必要だと考えました。

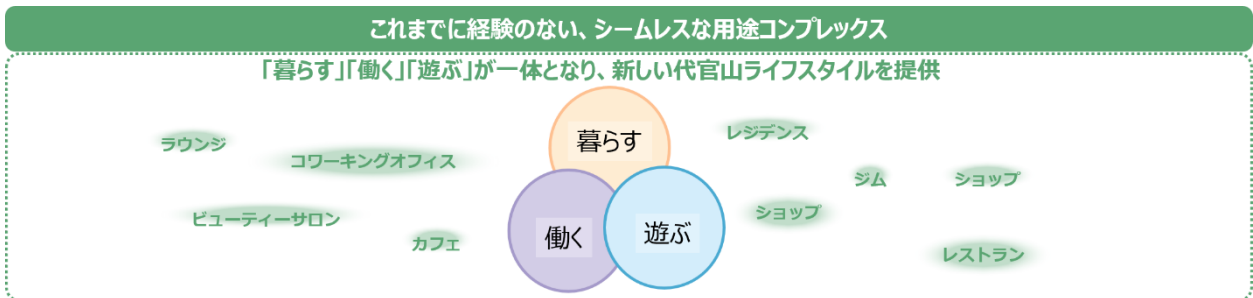
本計画では、賃貸住宅に加えオフィス・商業施設を計画していますが、個々の用途にこだわらず施設全体が生活の場となるような、「暮らす」「働く」「遊ぶ」がシームレスに融合する、これまでにない新しいライフスタイルの提案をしています。

加えて、代官山駅至近という利便性の高い立地にありながらも、緑豊かな街並みに合わせ、屋内にも屋外にも豊かな緑を取り入れて彩を加えることで、心地よい生活シーンを提供します。

今後も、代官山の地と共に変わりゆく時代に寄り添いながら、「やわらかな時の過ごし方」を育んでいきます。



フロア構成イメージ



八幡通りから緑豊かな中庭を経由するアプローチ<イメージ>



■ 広域渋谷圏での開発を継続的に推進

当社は、渋谷駅を中心とするエリア一帯を「広域渋谷圏」と定め、都市開発の重点拠点として位置付けています。再開発の続く渋谷駅周辺は、若者だけでなく大人も楽しめる街に進化し、新たなビジネスやサービスの実験の場としても発展し続けています。この渋谷から徒歩圏内の代官山は、都心ながら緑豊かで心地よい街並みが続く、良好な住環境を持つエリアです。

また、代官山は広域渋谷圏の中でも独特の存在感と個性を放ち、賑わいと落ち着きがバランスよく共存しながらも、時代に合わせた変化を柔軟に受け入れてきた街でもあります。当社は、この街だからこそ実現する、これまでに経験のない広域渋谷圏での新たな暮らしの形をご提案します。



代官山エリアイメージ



ライフスタイル<イメージ>



■ 長期ビジョンで取り組むテーマと、貢献する SDGs

東急不動産ホールディングスグループは、2021年「長期ビジョン 2030」において「WE ARE GREEN」をスローガンに、価値を創造し続ける企業グループを目指し、グループの強みを活かして、誰もが自分らしく、いきいきと輝ける未来をつくることを宣言しました。その実現のために、私たちが重視する社会課題から抽出した6つの取り組みテーマ（マテリアリティ）を掲げています。また、これらの取り組みを通じて、2015年に国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献すると考えます。

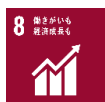
本計画における取り組みテーマ（マテリアリティ）及びSDGsは以下の通りです。



多彩な ライフスタイルをつくる

住まい方・働き方・過ごし方を融合させた「ライフスタイル創造 3.0」を推進し、心身ともに活力ある生活を実現

《貢献する SDGs》 No.8「働きがいも経済成長も」



「暮らす」「働く」「遊ぶ」が融合し、快適性・知的生産性の高い居住・労働空間の提供



ウェルビーイングな 街と暮らしをつくる

安心安全で快適な生活インフラの構築、共助コミュニティの創造により、誰もが幸せを感じられる社会を実現

《貢献する SDGs》 No.11「住み続けられるまちづくりを」



快適で過ごしやすく持続可能な都市空間と、都市施設における緑化



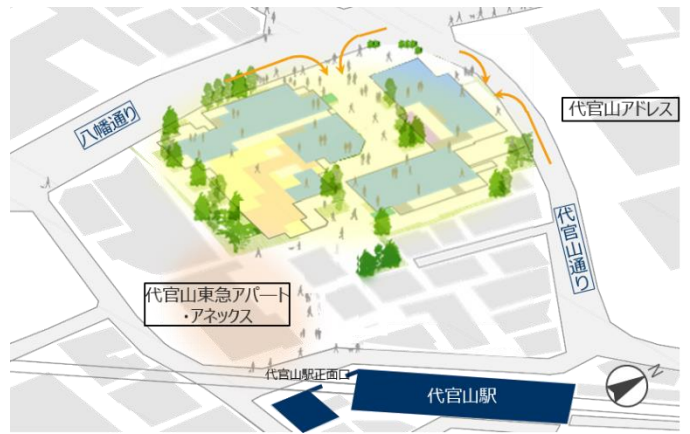
■ 事業概要

事業名称	(仮称) 代官山町プロジェクト
住 所	東京都渋谷区代官山町1 1 9 番他
敷地面積	約 4, 0 8 4 ㎡
延床面積	約 2 1, 8 7 5 ㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造 地上10階、地下2階
用 途	賃貸住宅、店舗、事務所、駐車場
基本設計	隈研吾建築都市設計事務所
実施設計	株式会社竹中工務店・株式会社東急設計コンサルタント 共同企業体
施 工 者	株式会社竹中工務店
竣 工	2 0 2 3 年 秋 (予 定)

<位置図>



<1階 配置図>



【 商業施設リーシングに関するお問い合わせ先 】

東急不動産株式会社 都市事業ユニット 都市事業本部 商業施設営業部
 担 当：本多、六角 TEL：03-6455-2634

